

授業研究会

校長 吉田 隆

今、日本の学校の授業研究が世界的に注目を浴びています。教師が同僚と協働して、お互いの授業を参観し批評し合うことで改善を図っていく手法です。百年以上前から、教師自身の自己研鑽の場として機能しているもので、ASEAN、中東、アフリカなどの国々への「輸出」が進められています。

新潟小学校では、その授業研究の発表会を例年行っており、今年は十一月三十日（土）に実施しました。休日にもかかわらず、県内外約百三十名、遠くは大阪府からも参加を戴きました。

研究主題は「主体的に聴き、自分の考えを深め、広げていく子どもの育成」です。相手の考えの根拠をしっかりと聴き取り、自分の考えとの相違点や共通点を明確にして学び合いを進めることで、論理的思考力を育成しようという研究です。この「聴く」という行為は、他者の存在を認める、尊重する姿勢の表れであり、多様性が高まる未来社会において一層必要になるものと考えます。

各学年一クラスずつ授業公開し、双方向に聴き合い学び合う子どもたちの姿をご覧ください。講師先生や指導

者の皆様、そして、参会者の皆様から貴重な数多くのコメントを頂戴しました。一部をご紹介します。

・グループ活動で考えが増えたり、もっと根拠はないか探したりする姿が素晴らしかったです。

・「え？よく分からない。もう一回言つて。」と、自分が納得するまで聴こうとする姿は、まさに双方向に聴き合う姿でした。

・聴き合う時のスキルやマナーが重要だという事を改めて感じました。

・子どもたちが躍動していました。また参加したいです。

・おもてなしの心がたくさんあふれる職員、ボランティア、地域の皆様だと感じました。

研究会を終えた教室では、高学年の子どもから次の言葉が飛び出したそうです。

「先生！ 研究会、次もやりたいです！」

授業研究は、教師の自己研鑽のみならず、子どもの学ぶ意欲を高める場としても価値があります。新潟小学校は今後も積極的に授業研究に取り組んでまいります。